北東アジア動向分析

中国

2010年上半期における中国東北三省の経済動向分析

中国人民大学地域都市経済研究所教授、国家計画専門家委員会委員　張可云
北京大学光華管理学院ポストドクター　張文彬

はじめに

東北振興政策が実施されて以来、東北三省の経済発展には新たな機運が高まっている。世界金融危機以降、東北三省の経済成長率は全国平均水準を上回っている。2010年第１四半期における遼寧省、吉林省、黒龍江省の前年同期比実質GRP成長率は、いずれも2005年以来の記録を刷新し、それぞれ15.9％、19.2％、13.2％に達し、全国平均水準（12.4％）を上回った[1]。うち、吉林省の実質経済成長率が特に高かった（図１）。

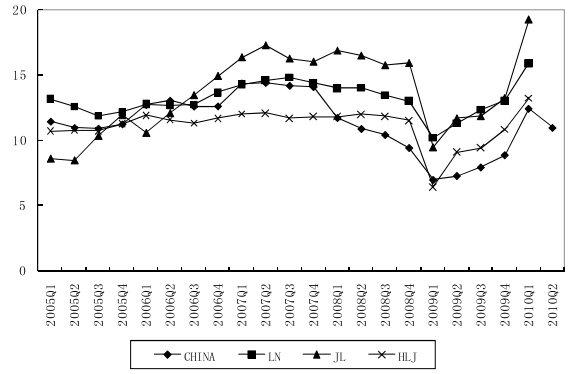
マルコフ・スウィッチング・モデル（Markov-Switching Model）のTurning Pointsの分析結果によれば、中国経済は2008年第４四半期から「収縮期」に入っていたが、東北三省は沿海部に比べて外需依存度が低いため、全国平均より１四半期遅れて「収縮期」に入った。2009年第１四半期における吉林省と遼寧省の対前年比実質経済成長率は、それぞれ10.2％、9.5％となった。他方、黒龍江省は全国平均を下回った。「収縮期」を経て、2010年第１四半期の中国経済は「拡張期」に入った。さらに、全国平均に比べて東北三省経済の回復テンポが速く、V字型回復を呈している。

2010年第２四半期における中国の実質GDP成長率は前年同期比11％増だった。この時期における消費者物価指数（CPI）の上昇および中国政府による不動産引締め政策の実施に伴い、2009年以来続いてきた金融緩和政策は、2010年３月に「適度な金融緩和」に転換された。マネーサプライ（M2）の月平均上昇率は、2009年の26.5％から2010年６月、７月の17.9％、17.2％へ低下し、2007年と2008年の水準に戻っている。金融引締めによるマネーサプライ（M2）の伸び率の推移を表したのが図２である。東北三省GRPの第２四半期成長率はまだ公表されていないため、マクロコントロールによる東北三省経済への影響について、以下では、月別指標に基づいて分析していきたい。

１．投資と消費

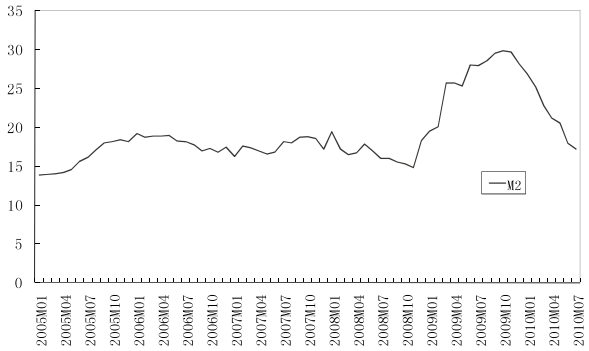
2010年１～７月における遼寧省、吉林省、黒龍江省の固定資産投資額は、それぞれ7,240.7億元、3,742.2億元、2,075.7億元だったが、季節調整前の伸び率（前年同期比）は

図１　中国および東北三省のGDP・GRP実質経済成長率（四半期ベース、％）



（注）データはX12季節調整法による。全国＝CHINA、遼寧省＝LN、吉林省＝JL、黒龍江省＝HLJ。
（出所）中国経済情報網データーベースより作成。

図２　マネーサプライ（M2）の伸び率（月別額の前年同期比、％）



（注）データはX12季節調整法による。
（出所）図１に同じ。

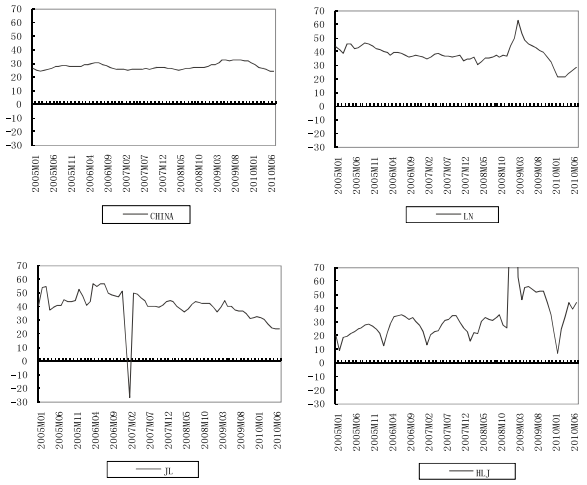
[1] 遼寧省、吉林省、黒龍江省の2010年第１四半期のGRP成長率が、季節調整前ではそれぞれ15.3％、18.9％、12.8％となり、季節調整前の中国平均水準（11.9％）より高かった。

29.8％、26.3％、35.2％となり、いずれも全国平均水準の24.9％より高かった。図３に示したように、近年の固定資産投資額の伸び率をみると、2009年の約30％だった伸び率が、2010年１月以降鈍化している。

遼寧省の場合、固定資産投資額の伸び率が2009年３月をピークに下落している。2010年１～５月の伸び率は全国平均水準より低かったが、2010年５月から小幅の回復が見られる。吉林省の場合、固定資産投資額の伸び率は全国平均と全く異なる様相を呈し、30％強の伸び率を維持しているが、2009年７月から低下傾向が見られ、2010年に入ってもその傾向が変わっていない。黒龍江省の場合、伸び率が2009年第１四半期をピークに低下したが、2010年３月以降は回復傾向にある。

消費動向をみると、2010年６月における遼寧省、吉林省、黒龍江省の社会消費品小売額の季節調整前の伸び率（前年同期比）は、それぞれ18.8％、19％、19.3％となっており、いずれも全国平均の16.8％を上回った。固定資産投資額の伸び率とは異なり、東北三省の社会消費品小売額の伸び率は、全国平均とほぼ同じ傾向で推移しており、その相関係数は0.8以上となっている。図４に示したように、遼寧省、吉林省、黒龍江省の社会消費品小売額の伸び率は、いずれも2010年２月以降、小幅な落ち込みを見せている。

図３　固定資産投資額の伸び率（前年同期比、％）



（注）データはX12季節調整法による。全国＝CHINA、遼寧省＝LN、吉林省＝JL、黒龍江省＝HLJ。
（出所）図１に同じ。

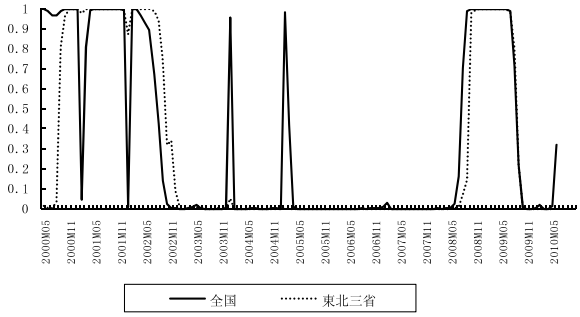
図４　社会消費財小売総額の伸び率（前年同期比、％）

（注）データはX12季節調整法による。全国＝CHINA、遼寧省＝LN、吉林省＝JL、黒龍江省＝HLJ。
（出所）図１に同じ。

２．工業

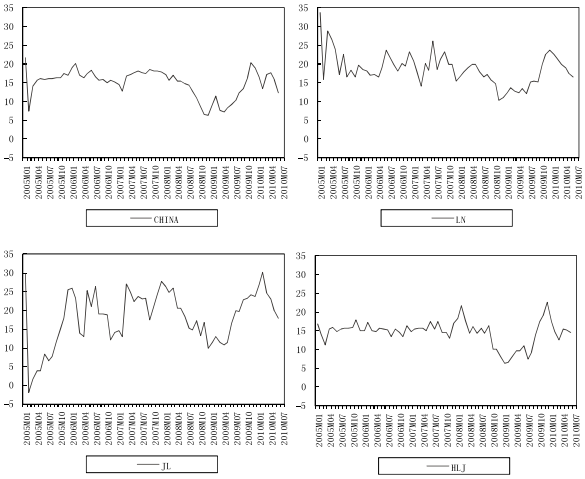
一定規模以上の工業企業（国有企業および年間売上高500万元以上の非国有企業）の付加価値額は、重要な月別指標である。2010年７月における遼寧省、吉林省、黒龍江省の工業企業の付加価値額の伸び率（前年同期比）は、季節調整前でそれぞれ16.4％、11.1％、16.4％だった。うち、吉林省は全国平均の13.4％を下回っている。図５に示した

図５　Markov-Switching Modelによる工業サイクルの転換点



（出所）図１に同じ。

図６　工業企業の付加価値額の伸び率（前年同期比、％）



（注）データはX12季節調整法による。全国＝CHINA、遼寧省＝LN、吉林省＝JL、黒龍江省＝HLJ。
（出所）図１に同じ。

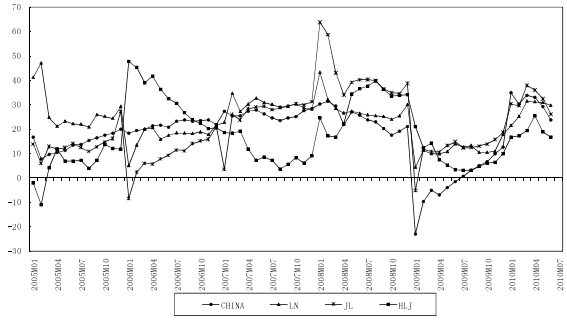
ように、Dynamic Factor Modelで東北三省における工業生産の付加価値額のCommon Cycleを抽出し、マルコフ・スウィッチング・モデルを利用して東北三省および中国全国の工業生産サイクルの転換点（Turning Points）を図った結果、東北三省の工業生産サイクルの変動は全国平均より遅れているが、その幅は徐々に縮小していることが分かる。2008年10月に東北三省の工業生産サイクルは「収縮期」に入り、全国平均より２カ月遅れていた。そして、2009年９月には東北三省の工業生産サイクルが「拡張期」に入っている。図６に示したように、2010年以降も「拡張期」は続いているが、2010年上半期における工業企業の付加価値額は低下している。うち、吉林省の状況は最も厳しく、2008年の最低時点の基準に戻っている。また、黒龍江省の場合、2010年３月には低下傾向がストップし、ある程度の回復が見え始めている。

３．財政、所得と消費者物価指数

2010年６月における遼寧省、吉林省、黒龍江省の財政収入が、季節調整前でそれぞれ1,010億元、295億元、386億元に達し、前年同期比30.6％増、24.6％増、16.2％増となった。うち、吉林省と黒龍江省の伸び率は全国平均の24.7％を下回った。図７に示したように、世界金融危機以降の東北三省財政収入の下落幅は、全国平均より小さいが、回復は比較的テンポが遅い。2010年上半期における東北三省の財政収入の伸び率は、第１四半期をピークに低下傾向にある。うち、吉林省の低下幅は最も大きい。

2010年第２四半期における遼寧省、吉林省、黒龍江省の都市部住民の１人当たり可処分所得は、季節調整前でそれぞれ9,804元、8,250元、7,340元となり、全国平均の10,699元を下回った。東北三省の前年同期比の伸び率はそれぞれ12.1％増、10.3％増、7.8％増だったが、うち吉林省、黒龍江省の伸び率が全国平均（10.7％）を下回った。

図７　財政収入の伸び率（前年同期比、％）

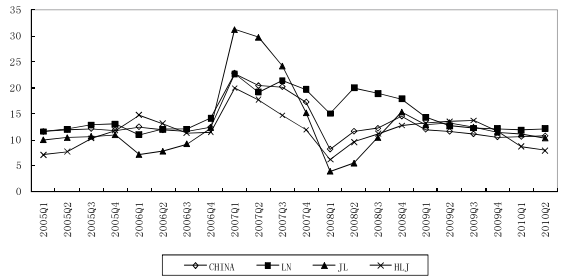


（注）データはX12季節調整法による。全国＝CHINA、遼寧省＝LN、吉林省＝JL、黒龍江省＝HLJ。
（出所）図１に同じ。

図８に示したように、都市部住民の１人当たり可処分所得の伸び率は、他の指標の変動と連動しておらず、2007年第４四半期以来の低下傾向が、2008年以降若干回復したものの、2010年上半期に入ってから低下傾向が続いている。うち、黒龍江省の伸び率が比較的低く、2010年上半期の減少幅がさらに大きい。

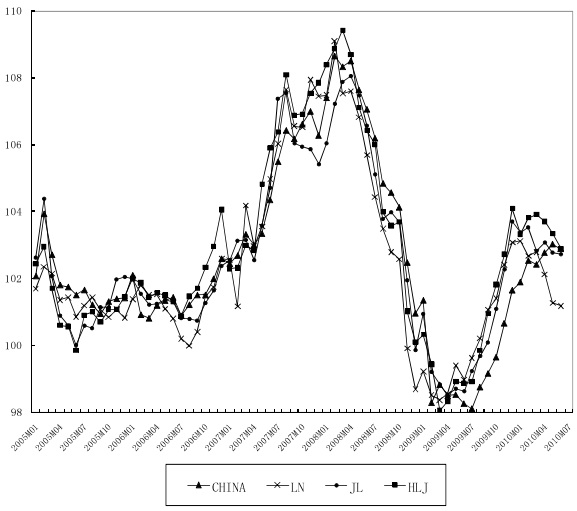
消費者物価指数（CPI）については、2010年６月における遼寧省、吉林省、黒龍江省のCPIはそれぞれ1.4％増、3.0％増と3.0％増、全国平均の3.3％増を下回った。図９に示したように、全国平均のCPIは2009年７月から上昇傾向にあり、2010年７月には3.3％増を記録した。他方、東北三省のCPIは2009年３月から全国平均を上回っており、2010年第１四半期にはピークに達した。うち、遼寧省のCPIは2010年１月に3.1％となり、その後は全国平均を下回ってきている。吉林省のCPIは2010年2月に3.6％増だったが、５月には全国平均を下回った。黒龍江省のCPIは2010年４

図８　都市部住民の１人当たり可処分所得の伸び率（前年同期比、％）



（注）データはX12季節調整法による。全国＝CHINA、遼寧省＝LN、吉林省＝JL、黒龍江省＝HLJ。
（出所）図１に同じ。

図９　消費者物価指数（CPI）の推移



（注）データはX12季節調整法による。全国＝CHINA、遼寧省＝LN、吉林省＝JL、黒龍江省＝HLJ。
（出所）図１に同じ。

月をピークに低下している。2010年上半期における東北三省のCPIは全国の変動とほぼ一致しており、全国平均を上回っていたインフレーションの圧力はやや緩和されたと考えられる。

以上、主に月別・四半期の経済指標を分析した結果、次のことが帰結できる。2010年上半期における東北三省のマクロ経済情勢は、全国平均と比して総じて良い。2010年下半期の東北三省の経済成長率は、全国的な低下傾向に伴って下がっていくと予想されるが、減少幅が全国平均より小さいと考えられる。

2010年第１四半期における黒龍江省の経済成長率は、吉林省と遼寧省に及ばないが、第２四半期の関連指標からみると、第２四半期と下半期には吉林省を上回る可能性が高い。その他、東北三省経済のミクロレベルでは依然として厳しい状況にある。今後、１人当たり所得が向上できなければ、消費拡大が制約されると考えられる。

４．政策動向

近年、東北三省の経済成長率は全国水準を上回る高い伸びを続けており、外資受入額も増えている。これは中央政府の有力な政策支援によるものが大きいと考えられる。世界金融危機の悪影響を防ぐために、2009年には中央政府が投資、貿易、農業、産業構造調整、民営経済などの分野において東北三省を重点的に支援した。そのため、2010年上半期における東北三省のマクロ経済状況は、総じて全国平均を上回った。

中央政府の戦略目標によれば、今後の東北三省経済の課題は次の通りである。①経済発展方式の転換を加速させること、②改革開放を一層推進すること、③東北三省農業の優位性を一層強化すること、④資源依存型都市の持続的な発展を図ること、⑤大興安嶺・小興安嶺林業区の生態保護と経済構造の転換を推進すること、⑥社会保障を改善すること、⑦社会事業および民生事業を強化すること、⑧旧工業基地の調整・改造計画を推進することである。

最後に、今後の東北三省経済を考える上で、次の３点を念頭に置いておく必要がある。①工作機械、原材料、農産品加工などの既存産業のレベルアップを図ること、②ハイテク、新エネルギー、省エネ・環境保護、新素材、バイオ製薬、バイオエンジニアリングなどの戦略的新興産業の発展に力を入れること、③金融、物流、観光、文化などのサービス産業を発展させることである。